

平成 27 年度日本 ICID 協会講演会の開催

ICID ナイリジ会長「持続可能な農業への水生産性の方向」

日本 ICID 協会は、平成 27 年 4 月 6 日（月）虎ノ門会議室にて、ICID 会長サイド・ナイリジ氏をお迎えし、「持続可能な農業への水生産性の方向」をテーマに講演会を開催いたしました。

冒頭林田会長より、ICID ナイリジ会長の経歴紹介の後、講演に入りました。
概要は以下の通りです。

講演は、人口増加、飲料水の低下、気候変動、産業開発、環境影響、水消費パターンの変化の影響など、食物供給のために、飲料水が逼迫していることについて講演が行われました。

世界の人口増加と飲料水の消費量は、急速に増えており、その反面、飲料水は減少している。今後、予測される栄養不足の人口は、サブサハラ以南の人数は以前高いものの、東南アジアなどは、急速に減少している。

耕作面積に関しては、灌漑面積は増加しているものの人口増加に伴い、一人当たりの耕作面積は減少している。

今後、収穫生産高の増加の予想に関して、サブサハラ以南は、耕作面積拡大の可能性が高いものの収穫生産高は見込めない状況であり、FAO データによると、開発途上国の食料供給は、現在の 91%に対して 15 年後の 2030 年には、86%まで減少すると見込まれている。

このような問題を解決するため、天水と農業用水の生産性を挙げている。

天水の生産性を向上させるためには、乾燥地農業、定住草地、森林の改善と管理が必要であると述べられた。

天水で生産している穀物の耕作面積と実際の耕作可能面積には隔たりがあり、サブサハラ以南では、耕作可能面積に対して耕作面積の割合が低く、ポテンシャルが高いことが示されている。

天水生産性の向上対策として、土壌水分保存法（最小耕起法、有機物マルチング、リサイクル法）、水資源保存法（最小畝、テラスと等高線畝、小規模ダム）、作物の多様性と作付時期の改善、補給かんがい等があると述べている。

農業用水の生産性では、作物生産の向上、適切な作物有効水量、かんがい水管理があり、アフリカを除く、アジア、アフリカ、ヨーロッパ、オセアニアでは、トウモロコシの生産が増加しており、作物生産の向上では、農業技術的な考慮、バイオテクノロジーの実践、遺伝子工学アプローチがあると述べられた。蒸発散量が分かれば、作物必要水量を計算することができ、かんがい水管理では、かんがい配水管理とかんがい水損失管理があると指摘している。

経済的な観点から、かんがい水不足と作付け時期に問題があり、技術的な改善では、かんがいシステムの近代化、ほ場均平化、水路のライニングがあると述べている。

農家レベルでかんがい水損失を最小限し、かんがい水量を減少させる努力が必要であると述べられた。

講演には多くの ICID 協会会員が参加し、ICID への関心の高さを伺わせ、講演後の質疑も活発に行われました。



ICID ナイリジ会長の講演



講演会の様子

（日本 ICID 協会事務局）

（お知らせ）

本講演会のテキスト等に多少余部がございますので、配布をご希望の会員は事務局までご連絡ください。